

## 鎌ヶ谷市生涯学習審議会 平成30年度第1回会議 会議録

◎ 開催日時 平成30年7月24日（火） 10時～11時15分

◎ 会 場 鎌ヶ谷市役所本庁舎 地下1階 団体研修室

◎ 出席委員 13名

篠田繁会長、谷口隆子副会長、赤松茂顕委員、有川かおり委員、石田友和委員、伊藤眞由美委員、今村濃太委員、清松檜男委員、小林修一委員、佐藤克己委員、竹内春美委員、細井和美委員、森本聡委員

◎ 欠席委員 2名

篠原勝委員、御代川泰久委員

※鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数15名に対し、出席委員13名であり会議は成立した。

◎ 事務局 5名

青木生涯学習推進課長、渡邊生涯学習推進課副主幹、田中主査、田中主任主事、関主事

◎ 傍聴者 0名

1 開会 （谷口副会長）

2 会長あいさつ

3 会議録署名人の選出

50音順に2名選出する慣例により、清松委員、小林委員に決定。

4 報告事項

①生涯学習市民アンケートについて

～事務局より資料に基づき説明～

**【意見及び質疑応答】**

委 員： アンケートの内容はさておき、今年度にアンケートの集計・分析、来年度に計画の素案作成、平成32年度にパブリックコメントを行い計画の決定をしていくことがスケジュールでわかるが、このタイミングでのアンケート実施は早くはないか。早く実施する理由は何かあるのか。

事務局： 平成33年4月から鎌ヶ谷市総合基本計画という鎌ヶ谷市全体の大きい計画が策定になる。この生涯学習推進基本計画は個別計画となるため、総

合基本計画の枠組みに合わせる必要がある。おっしゃる通り、アンケートの実施は早い感じはするが、総合基本計画が同じように動き出しており、その予定に合わせていることや、これまでもこのようなリズムで行っていること、国の答申を基に計画を策定しており、その答申が毎年出ていないことから、今のタイミングでアンケートを行い、微調整を図っていくつもりで考えている。

前回のアンケートは3割の回収率であったが、現在は紙ベースでのアンケートで3割の回収は奇跡的な数字である。3割の回収があれば計画に反映していけると考えているが、ここだけが懸念事項である。

委員： 選挙の投票率が約3割なので妥当ではないか。

また、いろいろな方がいらっしゃるので、市民の意見の吸い上げ方として紙ベースでのアンケートは良い。

委員： この1,000人の無作為抽出は、これまでの経験を踏まえ、年齢も含めて均等に抽出されていると理解してよいか。

事務局： はい。。

委員： おそらく3割の回収はできると考えているが、万が一に3割に満たなかった場合は、どのような対応になるのか。

事務局： このアンケートは、生涯学習推進基本計画の基礎となるものなので、回収率を問わず反映していく。仮に回収率が3割に満たなかった場合は、次期の計画策定の際の市民の声の聞き方について、考えなければならず課題となる。

委員： 回答をいただいている方々の年齢層はどのようになっているか。

事務局： 現状で84通の回答はあるが、回答期間中であるため、そこまでの確認はできていない。

今回のアンケートの依頼文で、この生涯学習審議会での意見を記載している。何も考えずにたくさんの質問をしているのではないということが伝わるだろうし、これまでにこういった記載をしているものはないかと思う。皆さんの意見のおかげである。アンケートを回収すると、市民の方の手元に何も残らないため、このような依頼文を送付したことも意味のあることだと考えている。

また、アンケートは表紙だけがカラーとなっているが、これは職員がこだわり手作業によって残業のない範囲で行ったものである。ぜひ3割の回答はほしいと思っている。

委員： このアンケートは、いつ発送したのか。

事務局： 7月18日に発送したので、20日あたりに対象の方には届いているかと思われる。すでに対象者のご家族から、妻宛にアンケートが届き協力したいところだが、遠くに入院しており聞き取りをして回答することが難しい。大変申し訳ない、という電話があった。

また、アンケートの最後に「アンケートは以上です。ご協力ありがとうございます

ございました。」という記載の下に、わざわざ「こちらこそ」と記入して回答をくださった方もおり、これからの回答が楽しみなところである。

委員： かまたんのイラストが入っていて可愛い。

委員： 「半分終わりました」という言葉が入っているのも良い。

委員： 回答率3割は300通の回答が必要である。大体1週間で約80通の回答ということで、回答を促すような催促ができればと思ったのだが。

事務局： 催促とお礼を兼ねたハガキを、もう少し経ったら送る予定である。内容としては、「回答期限を延長します」といった文言を入れ、そこでもう少し回答をいただけたらと考えている。

委員： 忘れている人もいるからね。

委員： このアンケートは18歳以上ということだが、上限は何歳までか。

事務局： 上限はない。

委員： 若者を重視しているのではなく、幅広い年齢を対象にしているのですよね。

事務局： その通りである。

委員： ただ、18歳から22歳までの大学生は、今の時期は試験期間中である。7月の20日位から8月の5日位までが試験期間なので、この世代の回答が少なければ、発送を1週間早めるなど考慮すれば、回答率が上がるかと思われる。

委員： 出す人はすぐ出す。残った人はたいてい出さずに終わる。

委員： 住民票を異動させずに大学に通っている生徒も多い。回答期限を延ばすと帰省した際に、回答できると思う。

委員： まじめな方はいつでも回答する。そうではない部分をどうするかである。

## ②審議会出席状況について

～担当委員から資料に基づき報告～

## 5 協議事項

公民館のあり方について

～事務局より資料に基づき説明～

・平成32年度までの期間は、市民会館と一体となっている中央公民館以外の公民館について、現体制を維持しながら公民館のあり方を研究していくことで同意

～あなたはどっち？クロスロードゲームを実施～

### 【意見・感想】

・民主主義なので多数決で決定するのはわかるが、その決め方で良いのかいつも疑問に思う。

・多数派だから正しいというのは疑問。結論を出すことは難しい。

・多数派にいるほうが、これで本当に良いのか、と疑問をもって考えて結論を

出すことが大切。

- ・他の人の意見を聞いてなるほど、と思って意見を変えた。他人の意見は自分の意見の咀嚼になる。
- ・他の人の意見はよく聞くものだと思った。

## 6 その他

委員： 公民館の利用について、市外の方も利用できるか。市内と市外で予約の優先順位や利用料金の差はあるのか。

事務局： 公民館の利用は、5人以上で組織された団体で、半数以上が市内の方で構成されている団体のみ利用できる。公民館は市外の方のみでの利用はできない。

委員： 船橋や白井、市川のプールは鎌ヶ谷市民も使える。夏しか稼働しないので、そこはどうかと思うが、市内の方に限定していないので非常に稼働率が高い。公民館にも同じことが言える。あくまで市内の方が優先で、市外の方にも利用してもらおう。ハコモノは費用対効果なので稼働率が重要である。稼働率が上がることで市の収入がアップし、次に資金を回せる。稼働率を上げるために、市外の方にも活用してもらえたらよいと日ごろから考えている。

委員： 郷土資料館は稼働率が低いと思っている。インパクトのある人骨があり、竪穴式住居は体感できるようになっていて色々な資料がある。また、第五中学校には東林跡遺跡もある。郷土資料館は、非常に意義のある価値のある展示をしている。だが、あんな一等地にあるのに人が少ない。みなさん、郷土資料館だとわかっていない。もう少しわかりやすく表示をするなど周知活動をしてほしい。もったいないので、もっとたくさんの方に利用してもらいたい。

委員： 郷土資料館はきれいになったが、図書館も含め駐車場がもっとあるとよい。この前、郷土資料館の企画のチラシが入っていた。こういうチラシで企画と併せて郷土資料館自体も知ってもらえたら良い。先ほどの話にあったが、たくさんの資料を持っているので、その資料を抽出しながら稼働率を高めていくというような審議会からの意見を反映してもらうことも必要かなと思う。

委員： 学校と協力して生徒が来てくれるのは良いが、あの立地では人に来てもらうのは難しいと思う。出張という形できりりホールを会場に講演会などを実施したらよいと思う。

委員： きりりホールから10分位だから、行こうと思えばショッピングセンターの駐車場に停めて行ける。

委員： 同じ建物だから、見て買い物して、と繋がるが、近くてもわざわざ独立した郷土資料館に行こうとはならない。

委員： 図書館と郷土資料館は3メートルくらいしか離れていないので、繋げて

しまえば、人の流れが変わると思う。図書館利用者は多いし、歴史好きな高齢者も多い。

委員： 白井市の資料館にはプラネタリウムがある。今すぐには無理でも、建物は50年位が寿命でしょうから、建替えの時に検討してほしい。

委員： 郷土資料館と図書館を繋げることは可能か。

事務局： 作れるかどうかは別だが、市有地である。

郷土資料館は文化施策になるので文化・スポーツ課の担当になるが、今このように意見をいただけるのは、恐らく2年位前から力を入れて頑張った成果で、足を運んでいただけたからだ考える。建物の外観から、あまり期待しないで入館されるかと思うが、ビックリするような内容のアトラクションになっている。鎌ヶ谷小学校の社会科見学にも来てもらっており、郷土資料館は色々な人を受け入れようとしている。私が中央公民館に勤務していた頃、図書館、郷土資料館、中央公民館で同じテーマだが違った視点からの社会科見学のプログラムを組んだ。中央公民館は、なくなってしまいう三橋記念館の映像を流し、郷土資料館は三橋記念館ができた当時の広報を出し、その広報を基に図書館では歴史を学ぶといった取組みをした。このような取組みの中で、先ほどの意見にあった、ちょっと遠い、という思いを埋めていき、やがては建替えの議論ができればと考えている。

委員： 図書館を出て、また郷土資料館へ入ろうとは思わない。繋げる予算はそれほどかからないと思うが。

委員： 図書館協議会でも、郷土資料館と繋げてもっと市民が来やすい建物になればよいという話が出ている。市民の意見が反映するような施設ができれば良いとは思っている。先ほど、流山の図書館の話があったが、鎌ヶ谷でも飲み物を飲みながら読めるような、ラウンジのようなものがあつたらよいという話もある。狭いからこそできる温かみも大切にしたいと思う。

～事務局から社教情報についてお知らせ～

## 7 閉会 (谷口副会長)

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

平成30年8月30日

氏名 清松 檜男

氏名 小林 修一